

平成28年度第1回 I C T利活用教育の
推進に関する事業改善検討委員会

平成28年 8月25日（木）

佐賀県教育委員会

I 開 会

II 県教育委員会挨拶

III 事務局より

1 ICT利活用教育の推進に関する事業改善検討委員会の開催について

2 委員について

IV 協 議

1 これまで及び今年度の取組について

(1) これまでの取組について

(2) 今年度の取組について

2 その他

V 諸連絡

次回開催について

VI 閉 会

平成28年度「ICT利活用教育の推進に関する事業改善検討委員会」の開催について

佐賀県教育委員会

1 開催趣旨

平成27年度より引き続き、本委員会を開催し、平成23年度から全県規模で実施している「ICT利活用教育推進事業」について、これまでの取組を振り返るとともに、今後のあり方について、総合的な立場から、取組の改善・検討に向けた協議を行うことにより、佐賀県ならではの教育の特色を活かした、より効果的なICT利活用教育の実施を図り、本県教育の質の向上につなげる。

2 委員

(五十音順・敬称略・※印は座長)

| 氏名 | 所属・職名等 |
|-----------------------|--------------------------------|
| いしばし えみこ 石橋 恵美子 | 佐賀県PTA連合会 副会長 |
| いとう たけひこ 伊東 猛彦 | 佐賀県高等学校PTA連合会 会長 |
| おのだ てつや 小野田 哲也 | Windows クラスルーム協議会 理事 事務局長 |
| かげやま ひでお 陰山 英男 | 立命館大学教育開発推進機構 教授 (立命館小学校 校長顧問) |
| かばしま えいじろう 樺島 永二郎 | 佐賀県PTA連合会 理事 |
| こが のぶたか 古賀 信孝 | 佐賀県高等学校長協会 会長 (佐賀西高等学校 校長) |
| こが まさかつ 古賀 政勝 | 佐賀県教職員組合 執行委員長 |
| さいとう もえぎ 齊藤 萌木 | 東京大学大学総合教育研究センター 特任助授 |
| しもかわ まさひこ 下川 雅彦 | 佐賀県小中学校長会 副会長 (佐賀市立高木瀬小学校 校長) |
| すぎさき しろう 杉崎 士郎 | 佐賀県市町教育長連合会 会長 (嬉野市教育委員会 教育長) |
| たなか こうへい 田中 康平 | 株式会社 N. E. L. & M. 代表取締役 |
| たなか しょういち 田中 彰一 | 佐賀大学教育学部 学部長 |
| ※とみよし けんたろう 富吉 賢太郎 | 佐賀新聞社 専務取締役・編集主幹 |
| なかの あつし 中野 淳 | 日経BP社 教育とICT Online 編集長 |

| | | |
|------------|------------|-----------------------------------|
| のなか 野中 | よういち 陽一 | 横浜国立大学教育人間科学部 附属教育デザインセンター 教授 |
| ひでしま 秀島 | まさふみ 正文 | 佐賀県小中学校長会 会長 (佐賀市立大和中学校 校長) |
| まえだ 前田 | かずたか 一貴 | 佐賀県教職員連合会 執行委員長 (江北町立江北小学校 指導教諭) |
| もみい 籾井 | ひろふみ 宏文 | 佐賀県高等学校教職員組合 代表 (鳥栖工業高等学校・定時制 教諭) |
| やました 山下 | やすたか 康孝 | 佐賀県スーパーティーチャー (伊万里高等学校 教諭) |
| やまだ 山田 | ゆたか 豊 | 高志館高等学校 指導教諭 |

ICT利活用教育の推進に関する事業改善検討委員会の運営について

平成 27 年 5 月 29 日
ICT利活用教育の推進に
関する事業改善検討委員会

1 趣旨

ICT利活用教育の推進に関する事業改善検討委員会（以下「改善検討委員会」という。）の運営については、以下のとおりとする。

2 改善検討委員会

- (1) 座長は、議長として、会議を進行する。
- (2) 座長がやむを得ない理由により改善検討委員会の会議に出席できないときは、改善検討委員会に所属する委員のうちから座長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

3 会議の公開

改善検討委員会は原則として公開とする。ただし、座長が非公開とすることが適当と認める場合には、その一部又は全部を非公開とする。

4 議事概要の公開

改善検討委員会の議事は、議事概要等をホームページへの掲載等により公開する。ただし、座長が非公開とすることが適当と認める場合には、その一部又は全部を非公開とする。

1 教育の情報化推進の背景

- 時代背景 (21世型教育への移行)
 - ・高度情報化・グローバル社会に対応した教育の実現
 - ・国における教育改革の動き
(教育基本法の改正、学習指導要領の改訂、他)
- 通常の学校や教室外でも質の高い教育の確保
 - ・新型インフルエンザ発生時の対応
 - ・地震や風水害などの自然災害発生時の対応
 - ・不登校や特別支援教育対象者への対応
- 学力向上の取組強化

教育の質の向上(社会の変化に対応した教育の実現)

2 全県での事業実施

| 具体的取組 | | H23~H25 | H26 | H27 | H28 | H29 |
|---------------------|---------------------|---|---|--|------------------|-----|
| 人材育成 (教職員研修) | | 内容理解 | 実践力養成 | 改善充実 | 個性発揮 | |
| 県立学校 ICT機器 整備 | 県立中学校 <全4校> | 実証研究(2校) ・電子黒板:全教室 ・情報端末:全生徒 |  |  | - | - |
| | 県立高校 <全36校> | 全校展開 ・電子黒板:全教室 ・情報端末:全生徒 | | | 改善 | 充実 |
| | 特別支援 学校 <全8校> | 実証研究(3校) ・情報端末:一部 | - | - | 定着 | - |
| | | 全校展開 ・電子黒板:全教室 ・情報端末:小中 ・情報端末:高1 | 全校展開 ・情報端末:高1 | 全校展開 ・情報端末:高2 | 全校展開 ・情報端末:高3 | - |
| 教育情報システム 設計・構築 | | 試作設計構築 | 運用・改善・セキュリティ強化 | | | |

3 ICT利活用による授業展開

(1) 電子黒板による教授法の改善

黒板との併用、デジタル教材との連携により、
分かり易い授業の実施が容易

- ・児童生徒の興味・関心を高める
- ・思考や理解を深める



(2) 学習用PCによる学びの質の向上

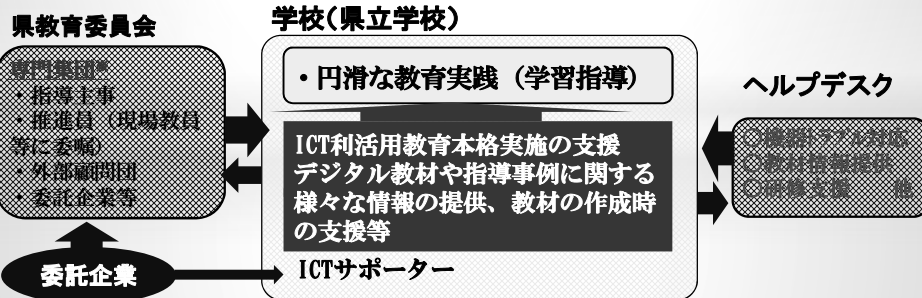
児童・生徒自身の理解の度合いや興味・関心、
ペースに応じた学習の実施が容易

- ・知識の習得、定着
- ・自らの考えを表現

知識注入型からの転換

4 事業推進のためのサポート体制

- 相談・支援体制の強化（教育情報課内に専任指導主事を配置等）
- モデル指導資料の例示と個別研修の充実（専門集団[※]によるモデル指導資料の作成）
- ICTサポーターの派遣
⇒各学校でのデジタル教材の作成支援、授業の円滑な進行支援、授業実施後の分析・整理・編集
- 機器トラブル対応のためのヘルプデスクの設置



改善検討委員会における取組状況



| | 第1回 | 第2回 | 第3回 | 第4回 | |
|----|------------------------------|---|---|--|--|
| 日時 | 平成27年5月29日(金) | 平成27年6月9日(火) | 平成27年7月7日(火) | 平成27年7月14日(火) | |
| 内容 | ・佐賀県が進める教育の情報化推進の取組についての状況報告 | <ul style="list-style-type: none"> ・国及び業界の動きの面からの考察 ○ 委員からの意見聴取 <ul style="list-style-type: none"> ・有識者 堀田委員 ・有識者 陰山委員 ・有識者 田中委員 ○ 外部有識者(日本視聴覚教具連合会ICT活用委員会委員長)からの意見聴取 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育効果の面からの考察 ○ 委員からの意見聴取 <ul style="list-style-type: none"> ・学校代表 秀島委員 ・組合代表 大久保委員 ・学校代表 羽井委員 ・保護者代表 坂本委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育効果の面からの考察 ○ 委員からの意見聴取 <ul style="list-style-type: none"> ・有識者 甲斐委員 ・有識者 齊藤委員 ・学校代表 白水委員 ・組合代表 野中委員 ・保護者代表 石橋委員 川崎氏 (伊東委員代理) | |
| | 第5回 | 第6回 | 第7回 | 第8回 | 第9回 |
| 日時 | 平成27年8月18日(火) | 平成27年9月9日(水) | 平成27年11月10日(火) | 平成27年12月17日(木) | 平成28年3月16日(水) |
| 内容 | ・課題として現場等から出された意見とこれまでの対応状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・県教育委員会としての今後の進め方 ・改善に向けた意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・本県におけるICT利活用教育の今後の進め方 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後のICT利活用教育の取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの対応状況と今後の取組 |

Copyright Saga Prefecture.All Rights Reserved.



平成28年度

ICT利活用教育の取組

Copyright Saga Prefecture.All Rights Reserved.

管理職研修

- 実施日 : 平成28年5月23日(月)
会場 : 佐賀市文化会館
対象 : 市町立学校・県立学校管理職
内容 :
○講演会「新たな学びとICT利活用」
信州大学教授 東原義則 氏
○講演会「情報モラル・セキュリティ」
情報処理推進機構技術本部主幹石田淳一 氏

参加 309名

市町立小中学校研修

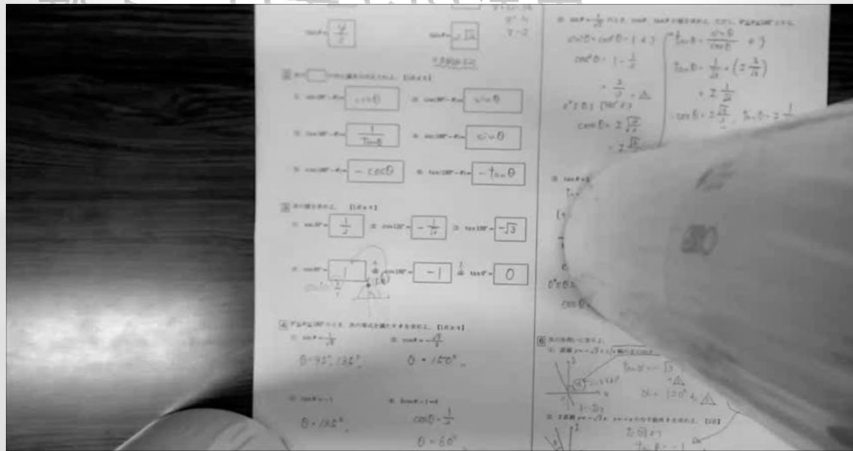
- 時期 : 平成28年11月～平成29年2月
会場 : 8地区で各1回実施
内容 : 授業研修
(ICT推進員による研究授業)
対象 : 市町立小中学校の
教育情報化推進リーダー

県立学校研修

- 日時：各学校の希望する日時
会場：各学校
対象：各学校の教職員
内容：①～⑤の項目から学校が選択し、教育情報課から指導主事が会場に出向いて実施
- ① 授業研修
 - ② 県内の実践事例紹介
 - ③ SEI-Netの新機能紹介・演習
 - ④ 新たな学習・指導スタイル
 - ⑤ 自宅での学習用パソコン活用

H27年度実施回数 88回

*実践事例 鹿島高校 数学 自宅での活用



*実践事例 唐津工業高校 木材加工模範ビデオ



動画：約1分30秒

Copyright Saga Prefecture.All Rights Reserved.

教科別授業研修会

時期：平成28年6月～11月
教科：国、英、数、地歴、理科（各2回実施）
内容：研究授業及びICT利活用研修会
対象：県立学校の教科担当者

平成28年度 前期(6月～7月)実施済分

| | | |
|---------|--------------|-------|
| 英語 | 6月16日(佐賀西高校) | 55名参加 |
| 地歴(世界史) | 6月21日(武雄高校) | 38名参加 |
| 数学 | 7月4日(唐津東高校) | 48名参加 |
| 理科(化学) | 7月8日(佐賀西高校) | 29名参加 |
| 国語 | 7月14日(伊万里高校) | 38名参加 |

Copyright Saga Prefecture.All Rights Reserved.

ICT利活用プレゼンテーション研修会

開催日：平成28年8月9日（火）

会場：佐賀市文化会館

講師：日本マイクロソフト株式会社

業務執行役員 エバンジェリスト

西脇 資哲 氏

- 日経BP 社から "世界を元気にする100人" に選出
- IT 企業、製造業、金融業、官公庁等でプレゼン講座を開設
- 「月刊教職」に特集「達人に学ぶプレゼンの極意」として登場

生徒対象の部（136名参加、保護者等含む）

教職員対象の部（176名参加）

佐賀県高校生ICT利活用 プレゼンテーション大会

開催日：平成28年12月18日（日）

会場：佐賀市文化会館

開催趣旨

情報活用能力の育成等を目標に、各学校で行われている教育活動をテーマに、高校生ならではの視点で情報発信を行う場として設定する

昨年度応募状況

42件（高校40件、特別支援学校2件）

* 平成27年度受賞者一覧

| 賞の名称 | 学校名 | 出場者名 | タイトル |
|---------------|-------------|-----------------|----------------------------------|
| 最優秀賞 | 佐賀農業 | ●● ●● | 「また来たい」カフェづくり ～カフェ経営実習を通して～ |
| 優秀賞 | 致遠館 | ●● ●● ●● ●● | ICTをフル活用しよう！ |
| 優秀賞 | 小城 | ●● ●● | 日本の伝統を見つめ直す ～木組みについて～ |
| 佐賀新聞社賞 | 多久 | ●● ●● | 百足の害虫・トビズムカデについて |
| 日経BP社賞 | 鳥栖商業 | 鳥栖商業高校 情報処理部 | 落ちない消しゴムを考えてみた。 |
| 日本教育 工学協会賞 | 伊万里 特別支援 | ●● ●● | 修学旅行を通して ～あなたにとって“友”とはどんな存在？～ |

Copyright Saga Prefecture. All Rights Reserved.

教職員によるICT利活用教育 指導事例発表会

募集期間：平成28年8月16日～9月6日

表彰等：教育フェスタ内で表彰・発表

開催趣旨

各学校におけるICT利活用教育の指導事例を県内の教職員が共有し、自身の学校の教育活動の参考とする

昨年度応募状況

28件(小 9件、中 7件、高校 11件、特支1件)

Copyright Saga Prefecture. All Rights Reserved.

* 平成27年度受賞者一覧

| 賞の名称 | 学校名 | 発表者 | 教科 (科目) | タイトル |
|---------------|--------|------|------------|--|
| 最優秀賞 県教育長賞 | 佐賀西高校 | 松高和秀 | 理科 (化学) | 生徒実験におけるICT機器を用いた授業実践 |
| 優秀賞 | 西与賀小学校 | 学校 | 算数・ 国語 | 自力解決に挑み、追求する児童の育成 ～さぐる過程で個を生かすための導入 のあり方～ <ICT利活用の視点を取り入れて> |
| 優秀賞 | 富士中学校 | 小淵重樹 | 社会 | 国境を自由にこえられるEUの暮らし |
| 優秀賞 | 佐賀商業高校 | 中西美香 | 数学 | データの分析(アクティブ・ラーニングを 取り入れた課題学習)におけるICTの利 活用 |

Copyright Saga Prefecture. All Rights Reserved.

平成28年度佐賀県ICT利活用教育フェスタ (兼 第42回全日本教育工学研究協議会全国大会)

会場 佐賀市文化会館、県青年会館、公開授業校

■ 10月14日(金)

- ・ 公開授業
(西与賀小、若楠小、城西中、致遠館中、致遠館高)
- ・ 全体会
(開会行事、基調講演、指導事例発表・表彰)

■ 10月15日(土)

- ・ 先導事業成果発表
- ・ 分科会(県内の実践事例及び佐賀県の取組)
- ・ 研究発表(全国の研究者による発表)

Copyright Saga Prefecture. All Rights Reserved.

学習用パソコン操作体験会

- ・ 11月26日(土) 9:00~12:00 致遠館高校
- ・ 11月27日(日) " 武雄高校
- ・ 12月 3日(土) " 有田工業高校
- ・ 12月 4日(日) " 唐津南高校
- ・ 12月10日(土) " 鳥栖商業高校

佐賀県高校入試問題を用いた授業体験

授業での取組 ～教科別授業研修会より～

～学習用パソコンと電子黒板 を使って発表する～

教科 国語
日時 平成28年7月14日(木)
授業者 山下 康孝(伊万里高等学校)
参加者 38名

授業内容

1 学習用PCを電子黒板に投影し、本文の現代語訳や文法事項を生徒が発表する



2 教師の質問に答えながら、主語や語句の意味を確認し、学習用PCで修正する



3 教師が授業支援ソフトを使ってワークシートを配布し、グループで解答を作成する



4 グループごとに作成したワークシートを学習用PCから電子黒板に投影して、発表する。教師が各グループの発表内容を黒板にまとめる



ICT利活用のポイント

生徒

教師

発表内容を可視化して他者に伝達する

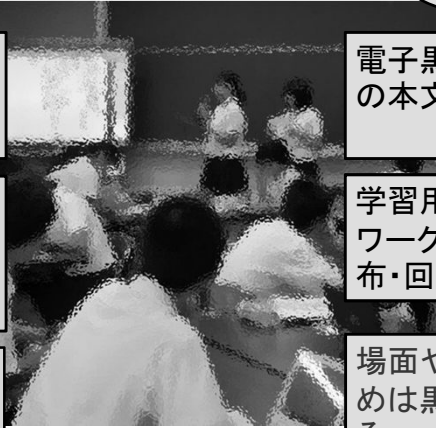
学習用パソコンへの書き込みが、同時に電子黒板へ投影される

自宅で振り返り学習をする

電子黒板は教科書の本文投影に活用

学習用パソコンはワークシートの配布・回収

場面や心情のまとめは黒板に板書する



ICT利活用の効果

1

即時性
すぐに提示できる
すぐに修正できる

2

情報をまとめ発信する能力の育成

4

個別性
一人ひとりの個性
や能力に応じた学習

3

思考の可視化

授業研究会

- 生徒は能動的な活動を行うことができる
- 現代文では、表現力を育成する分野で効果的に使うことができる
- 古文では、知識事項(単語・文法)の定着を図ることができる

H26年度ICT利活用教育推進事業に係る教科別授業研修会



国語指導における有効なICT活用法について意見交換

グループ学習は
知識・理解や読
む能力の向上に
効果的

古文の授業でもグ
ループ発表を取り
入れることで表現
力が身につく

他者の意見や解
答を保存できる
ので学び直しが
しやすくなった

教育の質を向上させるため
ICTを利活用した指導法のあり方について
職員研修を計画的・継続的に行っていきます

次回授業研修会案内
日時 平成28年11月18日(金)
授業者 藤田 佳子 教諭
場所 佐賀農業高等学校



ICT利活用教育推進事業に係る教科別授業研修会

佐賀県
<http://www.pref.saga.lg.jp/>

授業内容 『第一次世界大戦がもたらしたもの』

1 導入
電子黒板の画像資料により、1920年代の世界の繁栄を理解

↓

2 課題把握
1920年代終わりに暗転する世界を予測

《課題》「アメリカ大統領フーヴァーは“永遠の繁栄”という言葉でアメリカをあらわした。この言葉の中に潜む“危険性”とはなにか。自由に考えてみよう。」

授業内容 『第一次世界大戦がもたらしたもの』

1 導入

電子黒板の画像資料により、1920年代の世界の繁栄を理解



2 課題把握

1920年代終わりに暗転する世界を予測



3 ワークシートへの記入

学習用パソコンに送信されたワークシートに、前時の学習内容と関連付けながら、課題に対する考えを記入



4 意見の交流

授業支援ソフトを用いて、互いの考えを比較

5 まとめ

1920年代終わりの世界についての理解

■ICT利活用のポイント

生徒

- 授業支援ソフトで映し出されたシートをもとに、お互いの考えを比較し、考えを深めることができる。
- 既習事項との振り返りが容易にでき、関連付けて考えることができる。



教師

- 生徒の進み具合を一括で把握でき、個別指導に生かすことができる。
- 生徒の考えを画面上で比較できるので、授業の組み立てに生かすことができる。

1

画像・映像資料による学習意欲の喚起と課題把握

2

学習の記録・保存による既習事項のスムーズな振り返り

ICT利活用の効果

4

意見の比較による思考力を育むための手立てとして活用

3

生徒の学習状況の把握と個に応じた指導

授業研究会

- 公民の授業では、アンケート機能・投票機能を用いて、生徒の意見をリアルタイムに把握可能
- 地理の授業では、地形図を描く際に、電子黒板や学習用PCが有効
- 学校間で授業素材を共有できるように、著作権を処理した写真集などの作成が必要



H26年度ICT利活用教育推進事業に係る教科別授業研修会

資料提示は、厳選し、既習事項と関連付けることが効果的

授業支援ソフトで、生徒の考えを比較させることは、有効な手立て

教師の授業構想力の向上が必要（効果的な活用の工夫）

H28年度ICT利活用教育推進事業に係る教科別授業研修会



授業内容

1 予習

学習用パソコンで受け取った入試問題を自宅でノートに解く。

2 グループ学習(前時)

グループで最も良い解答をもとに発表用の原稿をノート作成ソフトにまとめる。
(ノートの撮影、関数グラフソフトの活用)

3 発表(本時)

グループでまとめた解答を電子黒板に投影し、生徒が前で発表する。

4 解説(本時)

教師が、解答の添削、補足説明、別解の紹介などをして、理解を深めさせる。

5 ふりかえり(本時)

生徒は、本時に学んだ内容を再確認する(ノート、学習用パソコン)。



ICT利活用のポイント

生徒

答案を書いたノートをカメラ機能で撮影し、ノート作成ソフトに貼り付けて発表原稿を作成する。

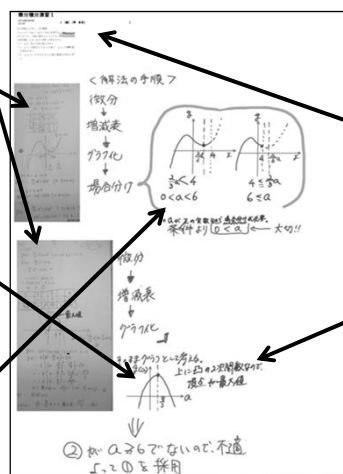
発表時には、板書やノート作成ソフトへの書き込み、など、分かりやすい説明方法を考える。

授業後に先生の解説を書き込む。

教師

授業支援ソフトを用いて生徒に問題を配布する。

解説はノート作成ソフトにペンで書き込んだり、関数グラフソフトを貼り付けたりする。



1

グラフ作成ソフト等の活用を通して自己の理解を深める

2

グループ活動を通して多くの考え方に触れる

ICT利活用の効果

4

問題解決に向けて思考を深める

3

発表活動を通して、自己の思考を整理する

授業研究会

- 生徒が解いたノートをカメラで撮影し、電子黒板で比較、添削をする。
- 関数グラフソフトのデモ内にあるコンテンツを活用する
- ノート作成ソフトを利用する。解答を塗りつぶしておき、塗りつぶしを消して答え合わせをする

H26年度ICT利活用教育推進事業に係る教科別授業研修会



カメラ機能

- ・日々の課題提出
- ・解説動画を配付

関数グラフソフト

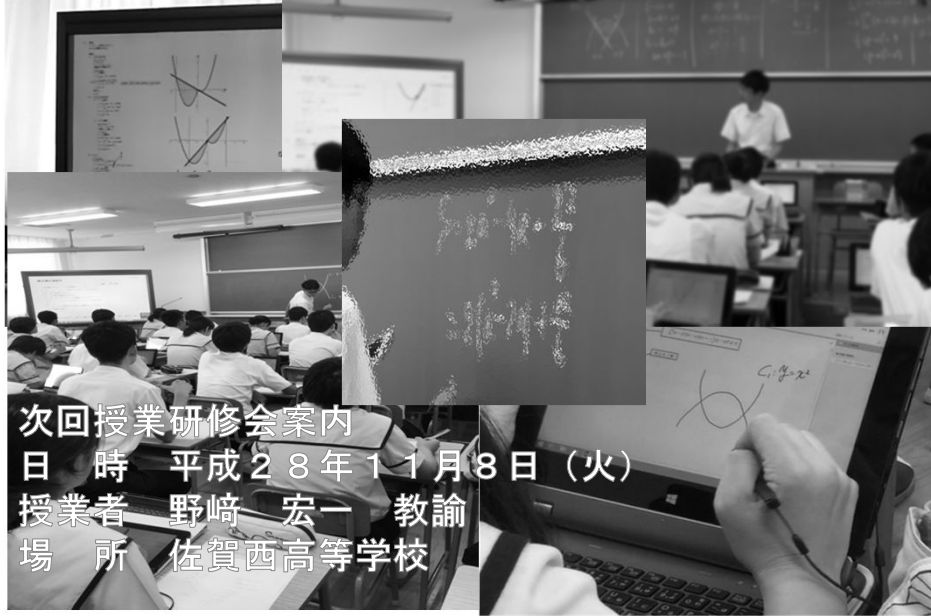
- ・分かり易く説明するためのツールとして生徒が活用

ノート作成ソフト

- ・考えを共有するためのツールとして活用

H28年度ICT利活用教育推進事業に係る教科別授業研修会

ICT利活用教育推進事業に係る教科別授業研修会



次回授業研修会案内

日時 平成28年11月8日(火)

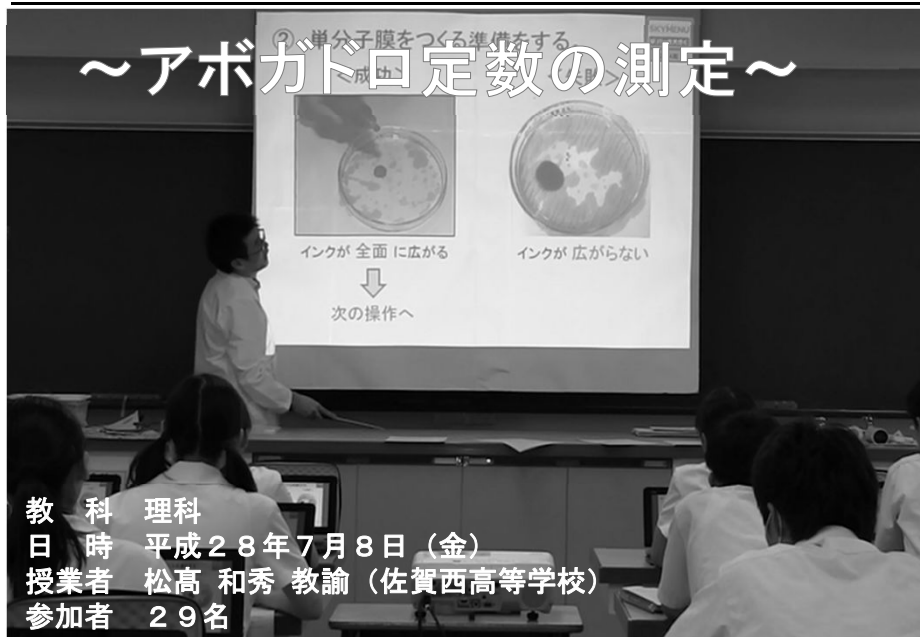
授業者 野崎 宏一 教諭

場所 佐賀西高等学校

ICT利活用教育推進事業に係る教科別授業研修会



～アボガドロ定数の測定～



教科 理科

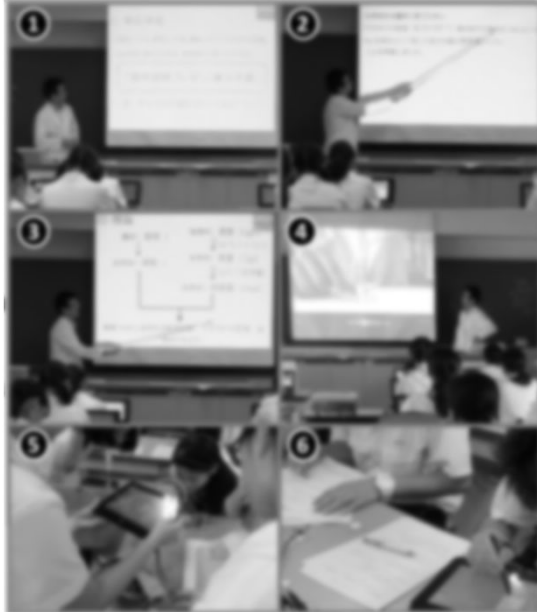
日時 平成28年7月8日(金)

授業者 松高 和秀 教諭 (佐賀西高等学校)

参加者 29名

授業内容

- 【①授業開始前の準備】
 - ・生徒は学習用パソコンに説明ファイル等を取得
- ↓
- 【②前時の復習】
 - ・mol、アボガドロ定数とは？
- ↓
- 【③実験理論の理解】
 - ・ステアリン酸の単分子膜形成の理論
 - ・単分子膜面積からアボガドロ定数を逆算する理論
- ↓
- 【④実験操作等の理解】
 - ・溶液1滴の体積測定法 ・単分子膜面積測定法
 - ・ピペット、シャーレの取扱
- ↓
- 【⑤測定・記録】
 - ・学習用パソコンによる記録(画像、動画)
- ↓
- 【⑥まとめ】
 - ・測定値の評価



ICT利活用のポイント

生徒

- ▶ 学習用パソコンで、説明資料を取得
- ▶ 学習用パソコンで、測定の様子を記録(画像、動画)



教師

- ▶ 測定理論、測定作業の流れ、作業のポイント等は、スライドショー及び動画(ともに自作)で説明



1 分かりやすい
説明が短時間で
可能

2 手元のデジタル
資料で手順を
確認しながら
実験が可能

ICT利活用
の効果

4 詳細な記録
(画像、動画)に
よる振り返りと
考察が可能

3 実験時間が
確保でき、
全生徒で測定
の完結が可能

授業研究会

- 「理科ネットワーク」のHP等を活用している実践が多い。
- 授業ですぐに使える素材(動画やシミュレーション)が充実するとよい。

H26年度ICT利活用教育推進事業に係る教科別授業研修会



自作のプレゼン資料
や自作の動画を活用
することで高い効果

黒板、電子黒板、スク
リーンを意識して使い
分けることで高い効果

配信資料や撮影物を
何度も繰り返し見るこ
とができ、イメージの
定着に有用

ICTの利活用が、進捗確保や分かりやすい授業の構築に有効

H28年度ICT利活用教育推進事業に係る教科別授業研修会



次回授業研修会案内
日 時 平成28年11月16日(水)
授業者 飯田 智子 教諭
場 所 唐津南高等学校



～学習用パソコンを使って
スピーチ～

教 科 英語
日 時 平成28年6月16日(木)
授業者 山口 司(佐賀西高等学校)
参加者 55名

授業内容

①リスニング

新単元について、リスニングにより概略を俯瞰



②精読+音読

読解上の要点を確認、理解の深まり



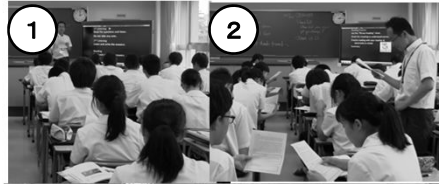
③スピーチ

芸術作品に触れて感動した体験について、学習用パソコンで画像等を提示しながら、スピーチ



④ライティング

3回目のスピーチ終了後、3分間でライティング



ICT利活用のポイント

生徒

- 画像を補助的に使いながら説明することで効果的に伝達できる。
- 家庭で発表の練習を行う際に、自分の発表を録音して改善を加えることができる。



教師

視線がパソコンの画面に行きがちになるので、生徒に、話す時はアイコンタクトを心がけさせる。



授業研究会

- 学習用パソコンにイヤホンを付けて、各個人のペースに合わせたリスニング練習は有効
- 音声ファイルを利用した教科書テキストの音源として活用することで、自宅での音声練習ができる
- インターネットで調べ学習を行い、調べた内容を英語で発表させることで、スピーキング力の育成に効果的

H26年度ICT利活用教育推進事業に係る教科別授業研修会



画像を使っ
てのスピー
チは効果
的

リスニングは、電
子黒板で文字を映
し出し、視覚にも訴
えた方が効果的

教師の授業構想
力の向上が必要
(継続的な研修の
必要性)

H28年度ICT利活用教育推進事業に係る教科別授業研修会

ICT利活用教育推進事業に係る教科別授業研修会



次回授業研修会案内
 日時 平成28年10月24日(月)
 授業者 福田 哲朗 教諭
 場所 武雄高等学校

事業改善委員会における今年度の取組について

| 平成28年度 検討課題(案) | 内容 |
|---|--|
| (1)授業等における活用に関すること (電子黒板と学習用パソコンの特徴を生かした授業づくりや家庭学習、学校行事等での多様な活用) | <今年度より> ・主体的な学びを創造する授業モデルについて ・効果の検証について <昨年度より引き続き> ・効果的な指導のポイントについて ・デジタル教材の充実について ・その他(環境等に関すること) |
| (2)教職員の意識・研修等に関すること | <昨年度より引き続き> ・校種や学校の実態に応じた研修について ・研修や教材作成に係る教職員の負担軽減について |
| (3)生徒・保護者の必要性・効果の認識等に関すること | <昨年度より引き続き> ・ICT利活用教育の周知・広報について ・家庭における学習用パソコンの活用について |

改善検討委員会におけるこれまで及び今年度の取組について

1 平成 27 年度の改善・検討に向けた意見及びその対応等について

| | 項目 | 課題として出された意見等 | 県教育委員会の対応等 |
|---|--------------------------------------|---|---|
| 1 | 教員の意識・研修等に関する こと（理解・納得） | ・有用性を十分に理解できていない 教員がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年 9 月から、職員研修を、全校共通の内容から、各学校の指導目標や各教科の教育内容に応じた内容に変更した。 ・継続して実態調査を行い、教員の有用性の把握に努める。 |
| 2 | 教員の意識・研修等に関する こと（指導力） | <ul style="list-style-type: none"> ・校種や学校の状況等に応じた研修の実施が必要。 ・有効な活用方法の研究や良い授業モデルを示して欲しい。 など | <ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年 9 月から、県が行う集合研修を、学校種や教科内容に応じた研修（第Ⅲ期研修）に移行した。 ・継続して、モデル指導資料の作成と既成のものとの質的な向上を図る。 ・また、文部科学省と連携し、指導指針を作成し配布した。 |
| 3 | 教員の意識・研修等に関する こと（負担感） 教員 | <ul style="list-style-type: none"> ・より高いスキルを身につける必要があると思ひ、研修を負担に感じている教員もいる。 ・自主教材を使いたいが、教材作成の負担が大きい。 など | <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、管理職研修や推進リーダー研修の場なども活用し、意識の徹底を図る。 ・引き続き、ICT サポーターを各学校に派遣し、自主教材の作成の補助等を行い、教員の負担軽減図っている。 |
| 4 | 教員の意識・研修等に関する こと（負担感） 特に推進リーダー | <ul style="list-style-type: none"> ・推進リーダーに業務が集中し、負担が大きいと感じている者もいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度からヘルプデスク機能の強化（現地員を各学校 1 名配置）を行っているが、今後も継続して推進リーダーの負担軽減を図っている。 |
| 5 | 生徒・保護者の 必要性・効果の 認識等に関する こと | <ul style="list-style-type: none"> ・学習用 PC の活用方法がよく分からない。 ・具体的な効果（学力向上）が見えていない。 ・「ICT の利活用でどのような力をつけさせたいのか」もっと具体的な説明が必要。 ・定時制生徒は、仕事との関係で学 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年 10 月に配布したリーフレットにおいて、 <ul style="list-style-type: none"> ・国が示す情報活用能力 ・学科や教育内容、授業内容等による違い ・実際に使ってもらえるような制度の紹介 ・個人負担についての理 |

| | | | |
|---|-----------------------------|--|--|
| | | 習用 PC の管理が難しい。 など | 解 などについて、具体的で分かりやすい説明を行った。 ・定時制高校を対象に、平成 27 年 9 月にも、就業中の学習用パソコンの保管状況等を調査した。その上で、学校とも協議を行いながら、対応方法等について検討する。 |
| 6 | デジタル教材 (内容) | ・教科・科目によってデジタル教材の充実度に差がある。 | ・教科部会を中心にして、教材の作成と共有化を進めている。 |
| 7 | デジタル教材 (インストールの簡素化と使用期限の延長) | ・デジタル教材のインストールに時間がかかるなど、不具合がある。 ・少なくとも在学中はデジタル教材を使えるようにして欲しい。 | ・把握しているインストール問題については対応済。 ・使用期限については、教材会社と協議し、23 社中 15 社は全部、1 社は一部の教材の在学中の継続使用が容認された。残りについても、引き続き協議していく。 |
| 8 | 情報端末 (学習用 PC) に関すること | ・機器トラブルは必至。教員だけの対応は不可。 ・改めて機種選定をすべき。 など | ・基本的操作方法や取扱い時の注意事項等を指導し、学習用 PC 操作研修を入学時 (4 月) に実施した。 ・機種選定については、平成 26 年度から 3 年間の状況を踏まえたうえで、全学年への導入完了後に抜本的に検討を行うこととし、平成 29 年度導入機種の選定時において、改めて端末選定検討委員会を開催し、価格等も含め総合的に検討して、機種・機能等を検討する。 |
| 9 | システム (SEI-Net 等) に関すること | ・今の仕様では、機能が不足している。 ・デジタルテストや教材登録など操作方法が煩雑である。 ・小中高を含め全県で統一して利用できるシステムにして欲しい。 | ・現時点でも、業者に委託して随時改修を行っているが、今後も現場の声を聴きながら改善に努めていく。 |

| | | | |
|----|--------------------|--|---|
| 10 | 環境に関する こと | <ul style="list-style-type: none"> ・学習用 PC の利用に際してネットワークが不安定で、授業に支障が出ている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・現在は、各校にヘルプデスク現地員を配置して、学校現場で即時に対応ができるようサポート体制を強化している。 ・学校の無線 LAN の接続等については、現地調査を行い、把握できた不具合については対処を行った。引き続き、状況把握と対処を行っている。 |
| 11 | 情報セキュリティに関する こと | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自由に使えるように、今よりセキュリティを緩くして欲しい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後、改めて保護者会や学校現場などの意見を聴きながら、より望ましい対応となるよう、検討する。 |



2 平成 28 年度の検討項目について（案）

| 平成 28 年度 検討項目 | 内 容 |
|--|---|
| (1) 授業等における活用に関すること [電子黒板と学習用パソコンの特徴を生かした授業づくりや家庭学習、学校行事等での多様な活用] | <今年度より> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学びを創造する授業モデルについて ・効果の検証について <昨年度より引き続き> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な指導のポイントについて ・デジタル教材の充実について ・その他（環境等に関すること） |
| (2) 教職員の意識・研修等に関すること | <昨年度より引き続き> <ul style="list-style-type: none"> ・校種や学校の実態に応じた研修について ・研修や教材作成に係る教職員の負担軽減について |
| (3) 生徒・保護者の必要性・効果の認識等に関すること | <昨年度より引き続き> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 利活用教育の周知・広報について ・家庭における学習用パソコンの活用について |